

令和5年度 江戸川区立上小岩小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○進んで働く子 ○体力のある子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子供たちが「生き生きとした表情で生活する」学校 ～笑顔で登校、笑顔で下校～ 「あなたがだいじ あいてもだいじ」(「自己有用感の確立と多様性の尊重、人・学校・町への愛着を大切にする学校」) 【コミュニケーション能力をもち、自分の思いや考えを表現する子】 【人権意識をもち、自分のよさを理解すると共に、友達とのよさも認める子】 【常に創意工夫をし、児童の資質や能力を伸ばす教育を展開しようと学び続ける教師】
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○児童が毎日学校に楽しく通うことができている。 ○校内研究による道徳の授業力向上 ○児童の基礎学力の定着へとつなげる指導の充実 <課題> ○自ら学ぶ力、考える力のさらなる育成 ○ICT機器(児童の学習用タブレット端末を含む)活用と授業方法の工夫 ○特別支援教育の充実 ○運動の日常化		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善案
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・校内補習「のびっ子補習」「のびのびタイム」の実施 ・上小岩検定の実施 ・放課後補習教室の有効活用 ・江戸川っ子study week！の実施	・東京ベーンシッドリアル診断シートの正答率70%以上 ・上小岩検定の正答率70%以上	A	B	○教職員全員で授業改善という視点をもって学習指導に取り組みすることができた。 ○放課後の個別指導の時間を有効活用することができた。 ●東京ベーンシッドリアル診断シートの結果を見ると、4学年のうち、2学年は70%の正答率を達成することができたが、2学年は課題が残った。	B	・全学年において、正答率を達成して基礎基本の定着を促している。	・領域ごとの正答率を分析しながら、苦手とする内容に対して適切な指導ができるようにする。 ・児童自ら、自己の課題を理解し、解決のための学び方ができるようにICT環境をさらに整えている。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科ノートを活用した探究的な学習の実施 ・江戸川っ子 読書科コンクールの実施 ・学校図書館の整備 ・図書ボランティアによる環境整備と読み聞かせ	・年8回の読み聞かせ活動の実施 ・各学期に読書活動を通して探究的な学習の実施 ・読書科コンクールへの作品出品	B	B	○読書科における探究的な学習とは何か、図書担当による研修会を開催し、理解を深め実践につなげることができた。 ○図書ボランティアによる読み聞かせ活動、図書館整備を推進することができた。 ●読書科ノートの計画的な活用ができていない部分があった。	B	・子供たちがすすんで読書に親しむための取組をさらに推進してほしい。	・実態に応じた指導計画を作成し、意図的、計画的な読書科の指導を各学年で推進できるようにする。 ・読書科における探究的な学習の在り方を整理し、的確な指導を行うようにする。
	<ICTの活用> ・情報に対する正しい判断、適切な情報活用能力の育成	・校内研究での研修充実 ・学習用タブレット端末の日常的な活用 ・メディアリテラシーの育成、取組の充実	・年3回のICTアシスタントによる校内研修の実施 ・年6回のICT活用に関する校内研究の実施	A	B	○情報リーダー、ICT支援員を中心に研修会を行い、ICT活用に対する具体的な方法を共通理解することができ、実践することができている。 ●個別最適な学びとしてのICT活用やメディアリテラシーの育成を進める必要がある。	B	・タブレット端末の使い方のルールをしっかりと理解して、有効活用ができることが大切である。	・児童一人一人に合わせた活用の仕方の提示、校内タブレットルールを明確にすることを進めている。 ・学年に応じた操作能力、リテラシー能力の在り方を整理している。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲の向上、自ら体力・健康に関心を持ち、高めようとする態度の育成、取組の充実	・運動遊び「遊びタイム」 ・体力向上につながるアプレイルームの活用 ・河川敷体育の充実、近隣公園の活用	・年間35回の「遊びタイム」の実施 ・児童アンケートによる「運動への関心」に対する肯定的な回答80%	B	B	○体育館、中庭、近隣施設を活用しながら「遊びタイム」を実施することができた。 ○6月からのスイミングスクールでの水泳指導の中で、水に親しむ態度や技能の向上につなげることができた。 ●遊ぶ場の確保や時間の設定は進めることができたが、体力向上や運動への意欲という視点でさらに具体的な指導・手立てを講じる必要がある。	B	・運動の場が限られた中で、土手や近隣公園の活用をしながら遊ぶようにしているため、引き続き継続を進めてほしい。	・日々の体育指導における児童の様子や体力テストの結果を分析しながら、施設校舎の中でどのような指導ができるのか、新たな手立てを考えていく。 ・施設校舎の中で限られた環境の中で、どのような指導ができるかを見直し、児童に選んで運動できる場の確保をしていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援専門員、巡回指導教員との連携 ・特別支援教育巡回拠点校との連携 ・校内委員会の活性化 ・学習環境のユニバーサルデザイン化	・年5回の校内判定委員会の開催 ・特別支援専門員、SC、巡回指導教員と担任との連絡・相談会の毎週実施 ・個票を用いた生活指導全体会の学期1回の開催	B	B	○特別支援専門員、巡回指導教員との連携を図り、エンカレッジルームの活用を進めることができた。 ○コーディネーターを中心に校内委員会の組織を見直し、共通理解を進めながら特別支援教育の推進を図ることができた。 ●教員間でのユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援、個別指導計画の作成等に差が見られた。	B	・様々な状況の子供たちがいる中で、個に応じた丁寧な指導が求められている。学校でできることを内情に促してほしい。	・校内委員会の組織体制をさらに明確にしていき、児童の状況を素早く把握、対応できるようにしていく。 ・関係機関との連携をさらに充実させていく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組充実 ・ふれあい月間にかかわる啓発活動の実施 ・生活指導連絡会、迅速な生活指導課題に対するケース会議の実施。	・年2回のふれあい月間、年3回のアンケートの実施 ・週1回の生活指導連絡会の実施、月1回のいじめ対策会議の実施 ・hyper-QUによる学級満足度80%以上	B	B	○「いじめ防止基本方針」を周知し、いじめや不登校の未然防止や早期発見に努めることができた。 ○ケース会議の開催や教室以外の居場所の確保等、現状に合わせた手立てを講じていることができた。 ●アンケートやhyper-QUの活用の在り方、教育相談への接続の仕方等、さらなる共通理解が必要である。	B	・いじめや不登校のない学校づくりを引き続き進めてほしい。	・組織的な対応を確実に実行するよう、基本方針に合わせた取組ができているのか生活指導部を中心に日々確認ができるようにする。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページの各項目の更新 ・学校(園)ホームページの充実の実施 ・「運動会」、「展覧会」の実施	・学校ホームページの毎日更新 ・保護者参観率80%以上	A	A	○毎日のホームページ内の「学校日記」の更新を進めることができた。 ○運動会の内容を精選し、「体育学習発表会」として行い、児童・教職員ともに無理のない形での実施することができた。	A	・学校だよりやホームページ等、様々な形で学校の様子を伝えていく。 ・学校公開、運動会等で子供たちの頑張る姿がよく見られた。	・引き続き、学校・児童の様子に分かるように取組を進めていく。 ・学校日記の更新とともに、保護者への連絡内容の充実を図る。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会の実施 ・保護者アンケートの実施 ・教職員による学校評価	・年3回の学校評議員会の開催 ・年1回の保護者アンケートの実施 ・年2回の教員による学校評価の実施	B	B	○学校評議員会において年間計画や学校・児童の様子を伝えることができた。 ○教職員による学校評価から課題を明確にすることができた。 ●アンケートの分析・考察を行い、素早く改善につなげていく必要がある。	B	・引き続き、学校の様子を伝えてほしい。	・アンケートのICT化を図り、素早く集約して、課題把握や課題解決につなげていく。
	<「地域力」活用の充実> ・教育活動の充実に向けた地域人材の活用	・学校評議員と教職員の懇談会の実施 ・七夕集会での講話 ・子供見守り隊による見守り活動の実施	・7月に七夕集会の実施 ・年1回の地域教育懇談会の開催 ・毎日の登下校の見守り、公園移動の見守りの実施	A	A	○7月の地域教育懇談会において、学校・地域の行事の共通理解を行うことができた。 ○保護者、地域の方々の見守り体験、様々な外部講師による指導等、児童にとって学びの多い時間を確保することができた。	A	・地域との関わりをこれからも充実させていき、子供たちの成長につなげていきたい。	・地域の協力を得ながら、安全な学校生活、学びのあな行事の推進をしていく。
特色ある教育の展開	<道徳授業を核とした学校づくり> ・「自己有用感の確立」と「多様性の尊重」を目指す教育 ・特別の教科 道徳の授業の充実	・指導の重点を置いた全校道徳の実施	・毎月全校道徳の実施 ・児童アンケートによる「自分も相手も大切にできた」に対する肯定的な回答80%	B	B	○毎月の全校道徳の内容を明確にして、各学年での指導を行うことができた。 ●自己有用感や相手意識を大切にしたい道徳授業の実践を学校全体でさらに進める必要がある。	B	・道徳の時間を通して、確かな心の育成を推進してほしい。	・これまでの校内研究や研修で培ってきたものを継続して、道徳指導に生かせるようにしていく。 ・特別活動の指導の充実を図る。